

## さきたま抄

一昨年の看護師国家試験は日本人受験者の合格率が90%なのに対して、特例枠の外国出身受験者は7・3%にとどまっている▼母国の看護師資格と豊富な実務経験もありながら、日本の資格取得は大きな壁がある。その難関を突破して中国・遼寧省の大連市で育ち、さいたま市で学んだ若者6人がこの春から、関西で看護師として歩み始めた▼呂亜南さん(22)ら6人はいずれも、大連市の大連16中学校の卒業生。16中学とさいたま市緑区の浦和学院高校が姉妹校だった縁で、卒業後に来日。関連校の同市桜区の浦和学院専門学校で看護師国家試験の勉強を重ねてきた。日本語を学ぶのは来日後。6人の日本語はゼロから桜区で鍛えられた▼共通の悩みは「カタカナの専門用語が難しい」。表意文字の漢字と異なる表音文字のカタカナ。ほとんど日本語を理解できない6人にとっては、看護師の勉強以上に苦勞だったに違いない▼滋賀県内の透析センターに勤務する呂さんは「学校で学んだことを復習し、新たな技術や知識を身に付けてきて、自分の成長が感じられる」と今も学ぶ姿勢を忘れていない▼政治的緊張もある日中両国だが、人の行き来は増加の一途。両国医療を知悉する人材確保は急務。今回は学校の縁がサポートした。外国人の人材活用促進には、制度の外側に民間などの支援の仕組みをつくることも大きな力となりそうだ。